



Contents

◆巻頭言	1
◆同窓会役員あいさつ	2
◆会員の窓	2
◆大学の動き・お知らせ	3
◆平成17年度予算及び事業計画	5
◆同窓会役員氏名一覧	6
◆事務局から	6

巻頭言

総合政策学部長 今岡 日出紀

母校は皆さんの卒業後キャリア形成の母港である

皆さんお元気ですか。久しぶりに卒業生の皆さんにメッセージをお送りします。

大学を卒業して自分の希望する会社に就職できたからと言って皆さんの生涯のキャリア形成は完成したわけではないのです。今後とも、より一層のキャリア・アップのために専門的教育を受けなければなりません。こんなとき、皆さんの母校は、生涯にわたる皆さんのキャリア・アップの母港になり得ることを伝えておきたいと思います。

最近までの日本の企業や官庁は、有望な社員を選んで、会社あるいは官庁がお金を出して、内部で将来の組織のエリートを養成してきました。しかし、バブル崩壊後日本の労働市場は大きく変化し、日本の企業は組織内エリートをもはや組織内で養成しないで、就業者自身が自分でキャリア・アップの費用を賄って、自分自身でキャリア・アップを図り、それを企業等に売り込むような労働市場システムになっているのです。このような日本の労働市場で生き抜くための母港となるのが島根県立大学であり、さらに活用していただきたいのが本学の大学院なのです。

私は島根県立大学に赴任する前に、三重大学および筑波大学で教えてきましたが、いずれの大学でも卒業式の時には『皆さんが将来キャリア・アップをしたい時には、どうぞ皆さんの母校の大学院に帰ってきて欲しい。我々は皆さんを待っています』とあいさつしてきました。その故かどうか知りませんが、2つの大学の卒業生が今もって、『母校の大学院に入学したいのだが推薦状を書いて下さい』など言ってきます。これらの依頼には今もって応えて面倒をみています。

皆さんも、母校の大学院を自分のキャリア・アップのための新しい母港として利用して下さい。我々は待っています。

新しい労働市場で生き抜いていかなければならない皆さんの助力者が皆さんの母校であることを是非覚えていて下さい。皆さんの健闘を期待しています。

同窓会役員あいさつ

副会長 久保田 翼 (旧姓 新谷)

秋冷の候、同窓会各位におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

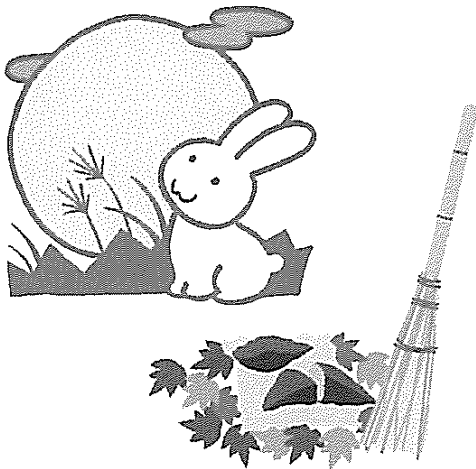
この島根県立大学同窓会も年々新しい仲間(会員)を迎え、今後もさらに発展していく未来を思いますと喜ばしい限りです。また、多くの方々の賛助により、こうしてこの同窓会会報も第2号を創刊できましたことを心より感謝いたします。

さて、時が過ぎ行くのは早いもので、去る三月には、一足先に巣立った第一期生に続き、第二期生も新しい世界へ旅立ち、日々奮闘されている卒業生の皆様も多いことと思います。

思い出の学窓があります浜田市も10月1日に那賀郡と合併し、新生「浜田市」が誕生しました。県立大学につきましても、来る平成19年には法人化されます。開学から刻一刻と時は流れて行く中で、この県立大学でも、数々の出会いがあり、かけがえのないつながりが育まれ、新しい歴史が刻まれています。

島根県立大学同窓会は、この素晴らしいつながりを永遠に絶やすことなく、ますます発展させていくものでありたいと思います。卒業された皆様にとって、この島根県立大学が懐かしく、誇りに思える学校でありそして同窓会となるよう皆様と盛り立てていきたいと思ひます。今後とも、同窓会へ皆様のあたたかいご支援をお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康、そしてますますのご発展を祈願いたします。



会員の窓

◆ 川本 未来 (平成17年3月卒業 浜田市)

島根県立大学大学院に入学してもう半年、この半年は私にとって、中身の濃い時間となりました。6月には、初めて自分の研究を学会で発表し、その時に出会った他の大学院生と研究についての意見交換をするようにもなりました。また、6月末には韓国で開催された国際女性会議に参加し、世界中の女性問題を考えるいい機会に恵まれました。大学時代には、学内以外のフォーラムやシンポジウムに参加することはありませんでしたが、今は他の県でも興味があるものに積極的に参加し、自分と同じ関心を持った人達との交流をするようにしています。自分が何かを知りたい、やってみたいと思って行動すると、必ず周りの人もそれに応えてくれるということが最近分かってきました。同じ研究分野の人達に会えることが私の最大の励みです。

—在学生へのメッセージ—

大学時代に大切なことは、「やりたいと思ったことは全部やってみること。」だと思います。やらないで後悔するよりは、まず、やってみて、失敗したり成功したりすることが大事。失敗しても許される時期なので、物怖じせずに飛び込んでみてください。様々な経験をする中で、きっと自分がどういう風に生きていきたいのかが見えてくると思ひます。

あと、何をしたいのか分からなくてじばた悩むのも、将来について毎日悩むのも大学生のうちですよ。

◆ 中塔 千鶴 (平成16年3月卒業 広島市)

現在、私は(株)アンフィニ広島の採用担当として勤務しています。入社2年目ですが、採用担当は今年の4月からです。それまでは、マツダ車の販売の営業として店舗で働いていました。主に採用の仕事は大学に訪問したり、学生と話をして当社の理解を深めていただいたり車の営業とは異なった仕事です。初めは、戸惑いもありましたが、多くの学生や教員の方々との出会いがあり、今は採用の仕事にやりがいを感じています。

—在学生へのメッセージ—

私は、採用という仕事柄多くの学生と接する中で感じるがあります。それは、様々な企業が求める人材として「コミュニケーションが取れる人」があげられていますが、相手の意見を聞けるというのも重要な

ことだと思えます。相手が何を聞いているのか、どんな意見をもっているのかということを知ることが自分の意見を相手に正確に伝えることに繋がると思えます。普段の皆さんの友人や、先生方との会話でも少し気にされてみると面接でも生かせるかもしれませんね。

私は、採用の仕事でよく母校に行かせていただいています。採用担当としてではなく、皆さんの先輩として何かアドバイスができると思いますので、もし、見かけたら気軽に声をかけてくださいね。

◆ 吉田 友香 (平成 17 年 3 月卒業 浜田市)

卒業して半年が経つ。このごろ週末になると宮から祭りのお囃子の音が響いてきて、もうすっかり秋がきたんだなと感じる。新しい世界に飛び出てからの日々はあっという間に過ぎ、幾度となく壁にぶつかっては、突破したかと思うとさらに大きな壁にぶつかることの繰り返しである。とはいえ、政治や経済、地域の姿…学生の頃より社会の出来事が一層リアルに感じられるようになるなど、社会人を自覚して生活を楽しめるようになったのもようやく最近かもしれない。

私が学生時代にもっとも重視していたこと、それは人との出会いである。所属していた大道芸部での6人の仲間とは、今も見えない絆のようなもので結ばれている。一人一人の性格や興味はバラバラなのだが、パフォーマンスの構成に遠慮なく意見をぶつけ合ったりするなど、大道芸をするときにはなぜかびしりとまとまっていた。また、私たちはよく地域の催しに呼ばれては参加し、芸を披露するのはもちろん、子どもたちや地域の人とたわいも無い世間話をして交流をあたためた。そのおかげで浜田はもとより島根のあちこちに大勢知り合いができた。

3年からは自分の興味分野であった環境学習活動を通してより専門分野の人々に会いに県外へ足を運んだ。3年の秋に参加した清里環境教育ミーティング、4年の夏休みに参加したヨルダンでの国際青年交流事業では、著名な環境教育の実践家や青年海外協力隊員から示唆に富んだ現場の声を聞くことができた。

このように、学生時代の様々な出会いで得た知識や経験こそが今の自分の糧となり原動力となっている。私は今環境 NPO 準備室の仕事に任されているが、培った人脈からより深い知恵を学び、ふるさとの役にしたいと考えている。

光陰矢の如し。どうか後輩の皆さんには、様々な人との出会いを体験し、恐れることなく視野を広げ地域における実践力を高めてほしい。また、同窓生の方々

の健康と活躍を祈るとともに、ふとしたときに島根に帰ってきてみやげ話を聞かせてくれることを心から楽しみにしている。

大学の動き・お知らせ

◆ 「島根県大学改革基本計画」と、これから

事務局長 金築 孝

「島根県大学改革基本計画」が、平成 17 年 9 月 7 日に公表されました。

これは、今年 3 月にまとめられた「島根県大学改革基本計画骨子」を土台として、その後設置された「島根県大学改革諮問会議」の報告や、8 月 22 日に開催された「3 大学学長会議」での議論を踏まえ、翌 23 日知事の承認を得、公表に至ったものです。

3 大学学長会議に際しては、あらかじめ基本計画の案が示されていたのですが、この案に対して、主として本学学長から数点の指摘があり、それは公表された基本計画に反映されています。

この基本計画では、平成 19 年の統合・法人化など、基本的な方向は骨子と変わりありませんが、大きく変わったところもあります。主なものを 2、3、紹介しましょう。

最も大きく変化したのは、県立 2 短大の 4 大化への取り組み姿勢です。基本計画骨子では、この問題に関して「(短大は学科の)再編を行った上で、(略)将来的な選択肢として 4 年制課程への移行を行う場合の課題について一定の整理を行う」と述べていましたが、今回の基本計画では「統合、法人化後に可及的速やかに 4 大化問題に対処できるよう、統合・法人化等の改革の具体化と並行して検討を進める」と、相当積極的な姿勢が打ち出されています。これは、短大の 4 大化についての大学改革諮問会議での議論が色濃く反映されたものです。

また、本学と表裏一体の関係にある「財団法人北東アジア地域学術交流財団」のあり方についての考え方も変わりました。骨子では、「(財団の)あり方について根本的な検討を行う」となっていたが、基本計画では「法人化に伴い平成 18 年度で廃止し、公立大学法人に引き継ぐ」ということになり、廃止の方針が明確に打ち出されました。

なお、この財団の事業で引き続き必要なものについては、北東アジア地域研究センターと、基本計画で新しくその設置が示された「地域連携推進センター

(仮称)」で引き継ぐこととされています。

一方、3大学の連絡会議が昨年から継続して開催されており、9月2日には今年度3回目の会議が開催されました。この会議には、本学からは学部長と私(事務局)が参加していますが、9月2日の会議は、3学長会議を経て決定された基本計画をもとに、・統合、法人化後の法人、大学の運営組織、・財務会計制度の基本方針、・入試事務の進め方、等の考え方について説明があり、意見交換が行われました。

大学改革基本計画は、県立3大学の統合・法人化を進める上での骨格となるものです。今後、これに肉付けし、具体化を図っていかねばなりません。この作業の根幹を担うのが3大学連絡会議です。今回の会議でも、大学・短大側からいくつかの疑問が示されましたし、考え方の違いも見られました。今後、これらを調整しながら、統合・法人化に向けたより具体的な制度設計等が行われますが、これは多くの関係者の理解と納得のもとに行われなければなりません。課題はまだ多く残されていますが、残された時間は限られたものとなっています。

統合・法人化を、よりよい大学づくりの契機とすべく、残された時間の中で、学内の議論を尽くし、また地域の皆さんの意見も十分にお聞きしていきたいものと思っています。どうかご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(平成17年9月30日発行「島根県立大学学報第27号」から転載)

◆海遊祭・運動会開催～来年につなげていこう～

初日は、あいにくの天気ですが、小雨を吹き飛ばしながらではありましたが、10月15・16日、第6回目となる大学祭「海遊祭」が開催されました。

今年度は、2本立てのメイン企画、「175Rライブ」と「海遊祭フォーラム2005」シンポジウムに実行委員会も準備段階から全力投球でした。

市民の皆さんとともに実施したフリーマーケット、留学生も参加してのパラエティーに富んだ模擬店、どのお店もなかなかのお客さんを集めていました。この他、災害支援を目的とした展示や募金活動なども行われ、年を追うごとに催しも多彩となってきました。

また、10月22日には、第2回目となる学年対抗の運動会も開催され、腰を曲げた背の列を川に見立て、その上を渡る「浜田川下り」や実行委員を指名した借り物競争など県立大生ならではの企画で、野山に歓声のとどろく秋の一日となりました。

今年は、市内の学童保育の子どもさんにも参加を呼びかけるなど、地域とのつながりも濃くなってきたところです。海遊祭も運動会にも、卒業生のみなさんの姿が見受けられました。また、これらのイベントには地域の各方面からの御支援をいただきました。

こうした大学を囲む地域における学生主体の取り組みが、県立大学の伝統になっていくのかと感慨を覚えたイベントでもありました。来年に向けて、ぜひバトンをつなげていって欲しいものです。

(文責 事務局 佐々木)



第2回 運動会



海遊祭

新任教員の紹介

野村 泰弘 教授

担当科目：「民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、民法と家族、基礎演習、総合化演習」

研究テーマ：取得時効、交通事故、入会権。このうち現在は入会権に重点を置いている。

李 曉東 助教授

担当科目：「フレッシュマンセミナー、中国外交、東洋の人と心」

研究テーマ：近代中国と近代日本の立憲思想

松永 桂子 講師

担当科目：「地域経済政策論、地域産業政策論、中小企業論、地場産業・産地、フレッシュマンセミナー」

研究テーマ：中小企業の存立条件と産業集積のあり方に関する政策分析、国際比較研究

平成 17 年度予算及び事業計画
◆収入

(単位：円)

科 目		予算額	前年度 予算額	増減	備 考
項	目				
会費		1,900,000	950,000	950,000	⑤5,000円×380人(H17新入生+卒業生見込)
繰越金		1,217,410	517,400	700,010	
寄付金		10,000	80,000	-70,000	
雑入		0	0	0	
合 計		3,127,410	1,547,400	1,580,010	

◆支出

科 目		予算額	前年度 予算額	増減	備 考
項	目				
事業費		230,000	50,000	180,000	地域支部結成支援、在校生への進路・就職活動支援 作成費、発送費用(卒業生)
	講演会等	150,000	0	150,000	
	福利厚生	0	0	0	
	会報作成 会員名簿	80,000 0	50,000 0	30,000 0	
総会費					
役員会費		150,000	150,000	0	会議運営費、費用弁償
	理事会費 幹事会費	150,000 0	150,000 0	0 0	
事務費		50,000	50,000	0	通信費・消耗品費
予備費		300,000	300,000	0	
繰越金		2,397,410	997,400	1,400,010	平成17年度から、入学時に会費を一括徴収
合 計		3,127,410	1,547,400	1,580,010	

平成17年度の事業は、会報の発行、同窓会地域支部の設立支援、卒業式等への会長の出席を計画しています。

同窓会役員氏名一覧

■ 会長	兒島 正俊	■ 幹事	越中谷 育未	有田 裕也
■ 副会長	新谷 翼		沖津 孝明	上杉 記隆
■ 理事	岩田 江身子		久保 彩佳	川本 未来
	佐々木 眞生		古賀 直樹	小山 学
	下手 麻子		谷口 正樹	藤江 美智子
	白根 慎介		藤々木 正幸	前田 啓介
	錦織 悠佑		中塔 千鶴	三輪 香織
	村上 栄太郎		秦 幸代	吉田 友香
			山村 涼	
		■ 監事	鈴木 琢也	
			中谷 悠里	

事務局から

今後も、年に1回程度会報を発行する予定です。卒業生の皆さんからの在学生へのメッセージなどは随時そちらへ掲載するなども考えていますので、近況などをお知らせ頂きますようお願いいたします。

なお、現在、大学のホームページに「卒業生のみなさんへ、同窓会」という項目を設け、住所変更などの登録が出来るように準備しています。ご不便をおかけしますが、当面は、現住所等の変更などがありましたら、お手数ですが事務局までメールやFAX等でご連絡をお願いいたします。

会費納入のお願い

島根県立大学同窓会は、平成16年3月19日に設立され、終身会費5,000円で運営されています。

既に多くの方々に、納付いただいておりますが、まだ納付いただけてない方は、下記により納付いただきますようお願いいたします。

納付方法① 銀行振込

山陰合同銀行 浜田支店 (支店コード 043)

口座番号 普通 3607995 口座名義 島根県立大学同窓会 会長 兒島 正俊

住 所 島根県浜田市野原町 2433-2

納付方法② 小為替の送付 (到着後、領収証を発行します)

郵便局で、5,000円分の「普通為替証書」を購入していただき、大学事務局まで郵送していただく。(受取人指定欄、受取人欄には何も記入しないでください。)

島根県立大学同窓会事務局

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
TEL (0855) 24-2202、FAX (0855) 23-7352
E-mail gakusei@u-shimane.ac.jp